

【非常災害対策に関する情報交換会】

平成28年10月26日

現在の 取り組み状況



Aグループ

- ・法人で災害についての取組みを行っている。
- ・母体施設に通所利用者の避難場所を確保している。
- ・町内会長や自治会長を交え、地域の危険箇所を見だし、それぞれが話し合い、マニュアル作成に取り組んでいる。
- ・災害に対して「安全」といえる所がない事も検討した。
- ・職員が災害等で来られない所はボランティアをお願いすることもあった。
- ・食料の在庫を確認し、不足しているものが多くロフトに補充している。
- ・防災センターから食糧の配給があり、早く来てもらえて助かった。

Bグループ

- ・5年前の津波、今回の台風で、共通し停電・断水があったので、それらを強化していくことにしている。（断水に備え⇒備蓄・停電に備え⇒電池の備蓄）
- ・防災対策委員会を開催している。
- ・内容を替え、月1で避難訓練を行い消防署に報告書を提出している。
（やりながら体で覚えてもらうようにしている。）
- ・災害協定での内陸からの応援があった。
（道路状況であまり機能しなかったなので、地域の助け合いが必要と感じた。）

Cグループ

- ・現在各事業所、見直しマニュアル作成中、検討中。
- ・災害時に備え備品を準備している。
- ・避難準備情報での避難の実施のため事業所間での連携の確認、検討。

Dグループ

- ・社用車に防災グッズをつんでいる。（ふえ・ホイッスル）
- ・情報収集を早めに行う。
- ・防災ラジオを設置している。（常にコンセントをさしておく）
- ・マニュアル連絡網を整備している。
- ・地域の方との研修会を行っている。

【非常災害対策に関する情報交換会】

平成28年10月26日

- ・車の燃料を半分以上にしない。
- ・玄関の空きスペースにグッズを置いている。（下駄箱の上に毛布）
- ・訓練を月1回行っている。
- ・注意報のつど避難している。（訓練にもなる。）（職員自主的に集まる。）
- ・過去の被害情報を集めて対策。⇒消防団の屯所の2Fを避難場所に指定。
- ・小規模多機能の利用者は安全なうちに帰す。
- ・オール電化の為インバーター付の電気自動車（リーフ・プリウス）で電気確保。
- ・太陽光の利用。（売電専門だが、非常時につかえる？）
- ・避難場所に事前に連絡し、畳・パーテーションを準備してもらえた。
- ・避難場所にポータブルトイレを持って行き、トイレ用に1部屋貸してもらえた。
- ・タクシー会社なので情報収集できている。
（防災無線デジタル化により逆に不便になった。）

Eグループ

- ・送迎車に防災グッズを準備している。
- ・情報収集し早めの避難を心掛けている。
- ・防災ラジオを設置している。
- ・避難マニュアルや連絡網を整備している。
- ・地域の方と合同の研修会（AEDの勉強会・消火訓練・運営推進会議等）。
- ・冷凍食品の確保、非常食の常備。
- ・社用車の燃料を半分以上にしない。
- ・避難訓練は月1回行うようにしている。
- ・災害時に利用者や職員を早めに帰宅させている（通所系）。
- ・利用者に非常食を食べてもらっている。

Fグループ

- ・今まで防災マニュアルがなかったためマニュアルを作成した。
- ・避難時にかえって危険な状況になる事が考えられる時は、柔軟な対応が必要と感じる。
- ・曇目地区が災害にあうという感覚がなく、避難のタイミングが遅くなった。
（避難を始めた時は避難場所に行けなかった。）
- ・避難のタイミングは、近くの学校に合わせて行った。

【非常災害対策に関する情報交換会】

平成28年10月26日



Aグループ

- ・台風の被害は想定していなかった。
- ・岩泉のように危ないと思った。
- ・山口川もあと1 mで決壊するところだった。
- ・マニュアルがあってもそのようには出来ない。
- ・判断ができない。
- ・職員が不足した。
- ・電話だけでは上に伝わらない。
- ・現在いる利用者をどの様に守るか。

- ・状況によって、利用者の帰宅、又は泊まる等の判断が大事。
- ・事業所が安全で、利用者を帰せない。
- ・独居の方々をどのように守るか。
- ・目の前に母体施設があっても頼れない。
- ・きちっとした避難場所を指定してほしい。
- ・確実な情報がほしい。

Bグループ

- ・大きな防災マニュアルはあるが、詳細の見直しと作成が必要。
- ・備蓄の置き場所、備蓄の量（内容）について。
- ・避難する際すべり台を用いているが、傾斜がきつく、利用者の安全面で不安があるため、方法を模索中。
- ・災害時職員の配置について（人員不足の解消）。
- ・災害時の地域との関わり。

Cグループ

- ・災害時利用者の不穏対応。
- ・持出品検討準備が必要。
- ・移動手段の確認、道路状況の確認方法。
- ・夜間帯の対応方法。

【非常災害対策に関する情報交換会】

平成28年10月26日

Dグループ

- ・避難後おむつ交換時等のプライバシー。
- ・避難先が2Fであること。
- ・遠方から来る職員や被災した職員が来られない。
- ・避難長期になった時の薬。
- ・安心な所に転居してもらった方がいい。
- ・非常電源の確保。(発電機ほしい。車の方が燃費が良い。補助もある。)
- ・地域の方とのコミュニケーションの強化。
- ・地域的にアパート等が多く長く住んでいる方からの情報ない。
- ・自治会に入っていない。
- ・避難のタイミングの難しさ。
- ・消防計画マニュアルの見直し。1人1人の避難方法。

Eグループ

- ・非常電源の確保。
- ・シェルター機能。
- ・地域の方とのコミュニケーションの強化。
- ・避難場所での排泄(洋式ポータブル)。
- ・具体的に課題をあげて避難訓練をどこまで出来るか。

Fグループ

- ・『三陸フェーン大火』のような火事を想定するなど、色々な災害を想定すると、マニュアルがいっぱいになっている。
- ・職員が通勤できない状況。
- ・災害時の連絡の取り方。
- ・グループホームは食べ物の確保も大変と思われる。(今回も買い込みがあった)
- ・避難所に和式トイレしかなかったり、車イスが入れないと大変である。

【非常災害対策に関する情報交換会】

平成28年10月26日

今後取り組み たいこと



Aグループ

- ・ 早め早めの対応（水害時に対して）。
- ・ 避難する時はご家族と一緒に来てほしい。
- ・ 今後大きな水害が来るとかなり危ない。今回の台風は事前に分かっていたので事前に対応が出来ると思う。
- ・ 防災マニュアル作成し、もう一度見直しがあるところをひとつひとつまとめている。
- ・ 一法人で色々な所に事業所があるのでひとまとめにし、連携を取っていく。

Bグループ

- ・ 備蓄スペースの見直し。
- ・ 避難の工夫。

Cグループ

- ・ 地域との連携の必要。
- ・ 長期避難にあった時の対応、事業所間の連携。
- ・ 地域に事業所の開放等を考えたい。

Dグループ

- ・ 非常電源の確保。
- ・ 利用者以外の独居高齢者や高齢者世帯の把握。
- ・ 災害時の役割分担表。系列施設での協力体制。
（地域の人も災害時には自分のことで手一杯。）
- ・ 避難後の食事（ミキサー食等の方）について考えていく。
- ・ 職員の生命を守る。
- ・ 避難経路の地図をそれぞれの災害にあわせて作成する。

Eグループ

- ・ 非常電源の確保。
- ・ 地域の方との合同避難訓練。
- ・ 地域との情報共有（浸水箇所や土砂崩れ危険箇所・過去の災害状況等）。
- ・ 地域の方の独居世帯や高齢者世帯の把握。
- ・ 避難場所を書いて貼っている近くにメモ用紙を置くようにする。

Fグループ

- ・ 非常時発電機の確保。（⇒長時間の使用はできない。）

【非常災害対策に関する情報交換会】

平成28年10月26日

家族や地域 との関わり方



Aグループ

- ・母体施設があるので電話連絡等を取りながら、利用者の避難が出来る。
- ・高齢者は慣れた所に置いた方が良い。
- ・台風時独居のため自宅に帰す事があぶないため、上層部と相談しGHに泊めた。ご家族から「こういうときは泊まった方が安心するので」と言われた。

Bグループ

- ・火災時には地域協力隊（婦人防火クラブの方々）がセコムと連動している。（消火ではなく、避難に関わって下さっている。）
- ・分団員などからの情報を得る。

Cグループ

- ・家族との連絡方法の確認。
- ・事前に対応方法（避難場所）を家族にお知らせする。

Dグループ

- ・利用開始時に万が一のことを伝える（避難場所）。
- ・派出所の方見回りにきてくれる。
- ・家族の方はGHに任せっきりだった。
- ・小規模の時は家族にお願いする。
- ・避難時は玄関に避難先貼っておく。

Eグループ

- ・家族に早めに避難することを伝え帰宅を促す。
- ・契約時に避難場所の説明。
- ・派出所が見回りをしてくれている連携。
- ・避難する時は玄関に避難場所を書いてラミネートして貼っている。
- ・地域住民との交流を深める。
- ・避難の仕方や避難場所を家族に伝える（契約時）。

【非常災害対策に関する情報交換会】

平成28年10月26日

Fグループ

- 自治会の方との情報交換を行い、自治会とともに災害マニュアルの作成をしている。
- 避難場所が水害にあい、動きがとれず変更したため、マニュアルの見直し作成を行っている。
- その後は避難準備情報が出た時点で避難を行う様にしている。
- 地域住民を助けてから避難をするということにしたが課題が残る。
- 地域住民の力を借りて避難という話となっていたがあてにはならない状態。
- 地域の方と一緒に避難をしている。
- 情報収集。（土砂災害についての情報を得る。道路情報を知る。）
- 自施設の立地によって避難の方法を考える。

＊補足＊ 各グループの構成事業所は次のとおり。

Aグループ・・・GH（3）、通所介護（2）、特養（1）

Bグループ・・・GH（3）、通所介護（2）、特養（2）

Cグループ・・・GH（6）

Dグループ・・・GH（3）、小規模多機能（2）、夜間訪問（1）

Eグループ・・・小規模多機能（2）、通所介護（4）

Fグループ・・・GH（1）、小規模多機能（2）、通所介護（3）、特定施設（1）

